

「諸工職業競」諸車製造之図（荒川ふるさと文化館蔵）

## 企画展

# 「あらかわと職人の歴史世界」 & 第20回あらかわの伝統技術展

# 荒川ふるさと 文化館だより

荒川区教育委員会  
荒川ふるさと文化館  
荒川区南千住6-63-1  
TEL 03(3807)9234  
登録(11)0023号

秋といえば恒例の「職人の祭典」、「あらかわの伝統技術展」の季節です。今年は、第20回を記念し当館企画展示室で「あらかわと職人の歴史世界」展を9月15日(祝)～11月14日(日)まで開催します。「あらかわの伝統技術展」での職人さんの実演「動の展示」、「あらかわと職人の歴史世界」展の「静の展示」をあわせてお楽しみください。

「職人の町」と呼ばれて久しいあらかわ。荒川区には、無形文化財(工芸技術)保持者—いわゆる伝統工芸に携わる職人さんがたくさん住んでいて、その占める割合の多さが、荒川区の文化財の特徴となっています。あらかわの生活関連産業界をリードするさまざまな職人たちも多く、かれらもまた腕

## ●企画展 あらかわと職人の歴史世界

このうち、「あらかわの職人史」はマチムラの職人たち(①マチの職人、②マチの歩み)、職人の歩み、職人の町の形成過程を明らかにする「あらかわの職人史」、現在活躍している職人の姿を紹介する「現代に生きる職人たち」の3つのゾーンから、職人の世界を紐解いています。

本展示では、日本の職人の歴史を概観する「職人の歩み」、「職人の町」の形成過程を明らかにする「あらかわの職人史」、現在活躍している職人の姿を紹介する「現代に生きる職人たち」の3つのゾーンから、職人の世界を紐解いています。

## ●第20回あらかわの伝統技術展

10月1日(金)～4日(月)にかけて区立町屋文化センター(荒川7-1-1)で開催されます。今年は、総勢33人の職人さんが参加し、あらかわが誇るべき伝統工芸の技を披露します。

町屋文化センター正面玄関前では、火床を作り、ラシャ切鋏と金切鋏の火づくり実演がおこなわれます。金槌で金属を鍛えるリズミカルな音を聞くと、おもわず足を止め見入ってしまいますよ。また、職人さんの指導を受けて実際に作品を作つてみる体験コーナーは毎年好評を得ています。今年の体験コーナーは、「マメ扇子」と「つまみかんざし」作りに挑戦です。

小山孝治氏(区指定無形文化財保持者・すだれ)と関根英氏(同・桐箱)による「職人よもやま話」では、職人の作品づくりへのこだわりや品物選びのコツなども聞くことができます。そして、伝統工芸技術記録VTR上映、作品有償頒布などなど盛りだくさんです。

詳しく述べ、荒川ふるさと文化館へお問い合わせください。

（2）錢座で働く人たち、（3）ムラの職人、（4）職人のまつり)と、殖産興業と職人（①殖産興業と勧業博覧会、②近代産業の中の職人）から構成され、蠟燭屋の道具、薬種屋の道具、川並関係資料、「錢座絵巻」「錢座御用書留」、真先錢座跡出土天保通宝、胡粉袋版木、「諸工職業競」などの職人史に関連するさまざま資料の展示を予定しています。

また、10月30日(土)には南和男先生(元駒澤大学教授)による記念講演会も予定しています。

# 現在のマチの軌跡

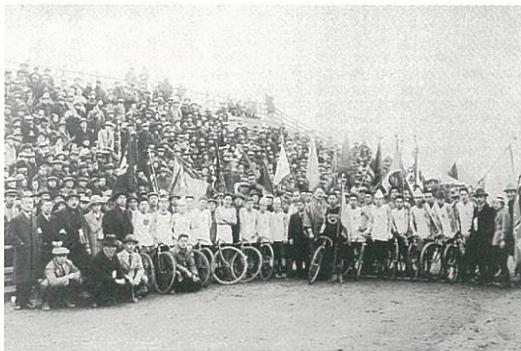
## ●『荒川(旧三河島)の民俗』刊行

昭和60年、汐入地区の民俗調査を皮切りにスタートした区内（以下尾久・町屋・南千住・日暮里・荒川（旧三河島））の民俗調査および報告書刊行事業が同書刊行をもつて終了しました。

最終地区となつた三河島地区は旧三河島村で、ほぼかつての三河島町1～9丁目に該当します。区の中央部に位置し、官公庁街として生まれ変わった同地区も、近世には蔬菜（三河島菜など）栽培や植木栽培などが盛んに行われた江戸近郊農村でした。

しかし、時代が明治に変わり、新政府が新しい都市「東京」の都市計画を推し進めるなかで、東京周辺の町や村と同様に、荒川にも宅地開発の波が押し寄せてきます。東京中央部から新たな生産の場を求めた人や工場が、当時まだ広大な用地を残した三河島地区に移住し始めたのです。明治29年に常磐線が付設され、同年に三河島駅が開設されると、荒川（現隅田川）の水運だけではなく陸路での流通・運送が可能となりました。とりわけ、ウエイストや自転車部品などは全国各地とその販路が結ばれて発展し、あわせて馬車などの運送手段も駅周辺を中心と賑わいを見せたといいます。

こうしたインフラ整備とともに発達した定住コリアンの人々が三河島、日暮里には多く住んでいます。その生活事例をまとめた考察は、さらなる都市化によって大正から戦後にかけては皮革関連産業、鍍金、ゴムなどの化学工業、そして大正から戦後にかけては機械工業として成長していった自転車工業などがあげられます。これら大規模工場の創設にともなって、中小規模の下請工場が集積していった姿が、現在も「町工場のあるマチ」としてその姿をとどめています。「モノを生み出す場」、「人とモノが共生する姿」がマチのあちこちに見られるのも三河島の特色といえるでしょう。



かつて荒川遊園で行われたといわれる自転車大会  
(三浦俊之氏提供)

していった三河島地区の工業には、当時の世相を反映してか、軍需と結び付いて発展し、時代の花形産業であった皮革関連産業、鍍金、ゴムなどの化学工業、そして大正から戦後にかけては機械工業として成長していった自転車工業などがあげられます。これら大規模工場の創設にともなって、中小規模の下請工場が集積していった姿が、現在も「町工場のあるマチ」としてその姿をとどめています。「モノを生み出す場」、「人とモノが共生する姿」がマチのあちこちに見られるのも三河島の特色といえるでしょう。

昭和30年代にはドブ川と化した藍染川、狂犬病予防法施行とともに開所した現東京都動物保護相談センター東部支所（昭和25年）などは、新たな都市生活を歩みだした多くの人々の「日常」を支えたのです。

こうしてみると、都市化を急がされた三河島地区の変貌ぶりにばかり目がいつてしまいがちですが、先にも述べたように、近郊農村であつた同地区には数代にわたる旧家も多く、イッケ（親族）のツキアイのほかにも、ヅシという地縁的互助組織が今も祭礼（山車人形の飾り付けや保管）および冠婚葬祭のツキアイに見られます。そうしたかつての農家が所有していた土地がたらしたのは、やはり関東大震災でした。震災によつて都心部を焼け出された人々が同地区に大量に流入し、多く煙地、宅地へと変化し、さらに空き地を埋めるかのように住居が林立し、で

## ●新たな民俗文化の展開相を求めて

さまざまな生業や文化的背景（郷土）

### 思い出、眠つていませんか？

民俗調査は一応終了いたしましたが、これまで報告されている内容の他にも、まだ知られていない記録があるかも知れません。そうした区内のマチの様子を写した昔の写真や思い出の日記帳などが、家のどこかに眠つていませんか？また、昔使つていた生活用具などが忘れられていませんか？

荒川ふるさと文化館では、引き続き情報・資料を集めています。眠つているもの、忘れられていたものが見つかったらぜひお電話ください。当館専門員が詳しい話を伺いました。

# 有 償 頒 布 刊 行 物 案 内

荒川ふるさと文化館では、下記の刊行物を郷土学習室にて有償頒布しております。見本もゆっくりご覧いただけますので、どうぞご利用ください。

- 汐入の民俗 ..... 1,100円
- 尾久の民俗 ..... 1,400円
- 町屋の民俗 ..... 1,400円
- 南千住の民俗 ..... 1,400円
- 日暮里の民俗 ..... 1,500円
- 荒川（旧三河島）の民俗 ..... 1,500円
- 荒川区の文化財（一） ..... 600円
- 荒川区の文化財（二） ..... 700円
- 荒川区の文化財（三） ..... 800円
  
- あらかわの板碑 ..... 300円
  
- あらかわの庚申塔 ..... 400円
- 日暮里延命院貝塚調査報告書 ..... 6,300円

●企画展

- 「あらかわと職人の歴史世界」図録 ..... 200円

昭和60年度から平成9年度にかけて行われた区内各地の民俗調査の報告書。

〃  
〃  
〃  
〃

昭和57年度から59年度に登録された文化財を紹介。

昭和60年度から平成元年度に登録された文化財を紹介。

平成2年度から7年度に登録された文化財と、

昭和57年度から平成7年度に指定された文化財を紹介。

昭和60年度に行われた調査の報告書。

（板碑については本号4頁「史跡めぐり」の項をご参照ください。）

近世を中心とした庚申塔・日待塔を紹介。

昭和62年にビル建設予定地で発見された

延命院貝塚の発掘調査報告書。

本号巻頭でご紹介した企画展の解説図録。

伝	統
芸	能
等	記
製	錄
作	ビ
こ	デ
ぼ	話

区内のさまざまな行事や文化財等を映像によって記録保存し、次世代に語り継ぐことを目的に始められたこの事業も6年目を迎えました。昨年度は当館にてこれらの映像資料をもとに編集した作品の上映会を実施し、撮影に協力していただいた皆さんはじめ、多くの方々にご来場・ご観覧いただきました。

■映像の撮影素材について

こうした映像記録の素材は、まず既存の文化財調査や民俗調査によつて得られた情報などをもとに選ばれます。さらに文字化して伝えることよりも、映像記録のほうがより多くの情報やその全貌を記録することが有効かつ必要とされているかどうか、緊急性を要しているかどうかを重視して絞り込まれます。とりわけモノづくりや「語り」、民俗資料の使用法説明ほか動きの多い祭礼などの民俗行事がこうした記録の中心となっています。荒川区ではこのほかに発掘調査や民家解体など、緊急記録を要する文化財の調査にもこの手段を採用してきました。

■映像管理

これまでの記録は、ベータカムおよ

びDVCA Mで収録し、それぞれベー

タカムテープをマスターとして

現在当館収蔵庫に保管してあります。

ベータカム採用の理由は経費面とクオ

リティにあります。例えば、多くの人々が関わる神事などでは、その流れ

を中断して「ハイ、T AKE 2!!」。

という訳にはいきませんし、ある程度

調査等で予測され得る「次の行為」で

あつても、現場では「何が起こるかわからない」というのが実情です。そうした行事を、意味を持つ一纏まり（シン）としてとらえ、しかも途切れることなく記録するとなると、その時間は膨大なものとなります。そのため、フィルムではなく、主にベータカムSPによる収録を行っています。収録データは、そのまましておくと「内容不明」となってしまうのでタイムコード（実時間を採用、但しデータ管理としての難点は複数カメラによる撮影の場合、同一のタイムコード画像が存在してしまうこと。なお、シートではカメラA・B等と記載。さらにローランバーパス番号を使用）およびそのシーケンスの解説となるシートを作成し、管理しています。これらを活用するとなると、さらに映像資料の整理作業が必要となります。特に近年では映像記録媒体や通信手段においてもデジタル化が進み、さらに収録した映像等にインデックスを付したデータベース化への移行についても国の機関をはじめ、各方面で研究が進められています。今後の撮影や保存用の措置として、その記録媒体や素材管理におけるパソコンの活用や、デジタル化も検討が必要になるでしょう。

しかし、管理面はさておき、デジタルによる記録・保存が決して万全とはいえないようです。画質やその保存、耐久性の問題、再生するハードの変化等を考慮すると、もつとほかに適切な措置があるのかもしれません。とはいっても、現時点でのデジタル化のメリットは大きく、増え続ける映像資料管理の思策は続きそうです。

# 未来へ伝える「技」と「歴史」



職人さんの鮮やかな手さばきを、くいいるよう見つめるまなざし。土器作りで、自分が納得できる形になるまで何度も何度もやり直す小さな手。

荒川ふるさと文化館では、郷土の伝統技術や歴史を伝えていくため、未来を担う子どもたちを対象にした事業を展開しています。そのなかから、「あらかわ学校職人教室」と「夏休み子ども博物館」を紹介します。

## 平成11年度 あらかわ学校職人教室

日 時	学 校	職人さん名(敬称略)		
5月28日(金)	尾久西小	手描友禅 井出	仏壇彫刻 酒場	
6月1日(火)	峡田小	江戸紙切り 桃川	刷毛 関根	
6月8日(火)	二瑞小	木版画摺 関岡	木版画彫 関岡	
6月8日(火)	尾久宮前小	桐たんす 川俣	印章小箱 堀田	
6月8日(火)	六日小	犬張子 田中	木版画摺 松崎	
6月10日(木)	三日小	べつ甲 森田	仏壇彫刻 酒場	
6月10日(木)	尾久小	鍛金 長澤	桐たんす 町田	
6月11日(金)	瑞光小	手植ブラシ 田口	指物 根本	
6月15日(火)	二日小	指物 井上	手描友禅 笠原	
6月15日(火)	ひぐらし小	寄席文字 中村	刺繡 坂本	
6月17日(木)	赤土小	唐木細工 吉田	べつ甲 矢吹	
6月18日(金)	四峡小	すだれ 小山	衣裳着人形 竹中	
6月22日(火)	三峡小	漆器加工 角	衣裳着人形 竹中	
6月22日(火)	大門小	指物 秋元	ラシャ切鋏 岡本	
6月22日(火)	六瑞小	木版画摺 三田村	ラシャ切鋏 石塚	
6月22日(火)	三瑞小	指物 渡辺	提灯 石井	
6月24日(木)	一日小	鍛金 桶谷	桶 小林	
6月25日(金)	九峡小	木版画摺 松崎	つまみかんざし 石田	
6月29日(火)	五峡小	ラシャ切鋏 石塚	木版画摺 三田村	
6月29日(火)	二峡小	指物 木村	鍛金 長澤	
6月30日(水)	七峡小	つまみかんざし 戸村	印章小箱 堀田	

## あらかわ学校職人教室

時間が経つ  
います。初回から参加いたして  
いる職人さんもいれ  
ば、今回初

「この木とこの木は匂いがちが  
うね。こつちは甘い匂いがする  
よ。」子どもたちの明るい声が響  
く「あらかわ学校職人教室」が  
始まったのは、関東地方も梅雨  
入りを間近にひかえた5月28日  
のこと。それからの6月30日ま  
での1ヶ月間、のべ42人の職人  
さんの参加を得て今年も無事に  
終了できました。

今年で16回目をむかえた職人  
教室。第1回に参加した生徒の  
子供が、現在この事業に参加し  
ていても不思議ではないほど  
に変わってきたが、「子ども  
たちに本物の技を見せたい」と  
いう職人さんの心意気に変わり  
はありません。その真摯な姿は  
きっと子どもたちの記憶の中に  
残ることでしょう。



## ◆あらかわ史跡めぐり ◆板碑編◆

今にも降りだしそうな空模様の5月15日午後、今年度最初の史跡めぐりが行われました。今回は「あらかわの板碑が語る中世の心と技術」と銘打ち、講師に三宅宗議氏(東国文化研究会会員)をお迎えしました。

板碑は中世の石塔の一つ。石塔とは亡くなつた人のあの世での幸福を祈つたり追善(ついせん)、自分自身のこの世とあの世での幸福を祈つて(逆修)、造るもので、形によつて宝篋印塔、宝塔、五輪塔、板碑など、いろいろな名前がついています。関東地方を中心に分布する武藏型板碑は頭が三角形にとがり、青緑色の石(緑泥片岩)に梵字という古代インドの文字や、なぜこの板碑を造つたのか(造立趣旨)などが刻まれています。このような板碑に関する基礎知識と、荒川区にある板碑の特徴、また、板碑をどうして造ったのか(造立年)などについて学びます。このようないい板碑について学んだところで、実際に南千住に点在する板碑めぐりに出発しました。

荒川ふるさと文化館から途中、山王清兵衛の庚申塔(区登録文化財)に立ち寄ります。ここで、板碑との違いについて学び、日慶寺で区内最古の板碑(正応2年銘)を見学。その後も荒川ふるさと文化館専門員の野尻かおるの説明で素盞雄神社、円通寺、武家屋敷跡と進み最後は淨閑寺へ。淨閑寺は新吉原で亡くなつた遊女たちや、安政の大地震での被災者などが投込み同然に葬られたことから俗に「投込寺」と呼ばれました。川柳に「生まれては苦界死しては淨閑寺」と詠まれた遊女たちの悲しい生涯に思いを馳せて、この日の史跡めぐりは終了。解散の声を待つていたかのように雨が降りだしました。

# 夏休み

## 子ども博物館

### ●土器作り

「おじいちゃん、おばあちゃんが子どもだったころ」

(開催期間 7月17日～8月31日)

当館で収藏する多くの生活用具のなかには戦前から戦後にかけてのもののが多数あります。これらは区民の方から寄贈された当時の生活を語る貴重な資料です。

当時、子どもたちは戦況が悪化してくると学童集団疎開により長期にわたり、親と離れ離れの不安な生活を強いられました。これらの戦時生活資料たちは「戦時中・戦後の思い出」として記憶に残り、各家中に残されてきたものです。

今回の館蔵資料展は、小・中学生の祖父母らがちょうど同じ学年期にあった戦時中、戦後の生活を当館で収藏されている様々な資料を用いて子どもたちに学習してもらうことをねらいに展示を計画しました。この展示を観て自宅に帰った後にご家族で「今日、荒川ふるさと文化館に行つてきておじいちゃんとおばあちゃんたちが子どもの頃に使っていたのを見てきたよ。おじいちゃんが子どもの頃はどんな遊びをしていたの?」「それはね・・・」というような会話がはずんだことでよう。この展示をきっかけに子どもたちが荒川ふるさと文化館に親しみをもち、荒川区の歴史について少しでも興味を持つてくれたらと思います。

「昔の人はどのようにして土器をつくったのか」を実際に土器を作ることで学ぼうという趣旨で、小学4～6年生を対象に当館地下一階視聴覚室において土器作りを行いました。

今回の土器作りでは多くの工程の中から成形（土をこね、土器の形に仕上げていく作業）と磨き（土器の形に仕上げていったあとに貝がらなどを使いながら土器の表面をなめらかに整えていくこと）の2つの作業を子どもたちにやってもらうことにしました。

また、その他の作業については引渡しの日にビデオ学習の時間をもうけて実際に行っている作業を見ながら文化館専門員が説明を行いました。日程は成形が7月22日、磨きの作業は7月27日、ビデオ学習・土器引渡しが8月22日の3日間。



### ●荒川ふるさと探険ツアーアクセス

小学3～6年生を対象に荒川区の史跡めぐりを行いました。荒川区の小学校では地域について学ぶ授業を3年生の時に行っていることから、対象を小学3年生からとしました。

昨年の日暮里コース、南千住コースに引き続き、今年は8月18日に尾久コースを歩きました。

アクト21（区立男女平等推進センター）、熊野神社、熊野の渡し、八幡神社、小台の渡し、あらかわ遊園の順に回っていました。

子どもたちは、テキストを手に専門員による説明に熱心に耳を傾けていました。

子どもたちは、テキストを手に専門員による説明に熱心に耳を傾けていました。

しづつ削っていきます。表面がなめらかになったところで磨きは終了します。これらの土器を完全に乾燥させたのち焼いて完成となります。

最後にビデオ学習において自分の土器がどのような方法で焼かれたり、子どもたちはどんな感想を持ったでしょうか？

この他にいくつもの作業が重ねられ、報告書を作成し、刊行するまでが整理調査になりました。

整理調査は、出土された遺物（過去の人びとが使っていた道具など）を水で洗い、1点1点に注記していくます。出土品は分類され、ばらばらの土器片や陶磁器片などをパズルのようにつなぎ合わせてていきます。（接合）。また、実測し写真撮影も行います。

この他にいくつもの作業が重ねられ、報告書を作成し、刊行するまでが整理調査になります。

遺物は、縄文時代から近代にかけての幅広い時代にわたって、出土しました。

縄文時代では、早期から中期にかけての縄文土器片が見つかっています。近世から近代にかけては、中国輸入磁器や京焼などの陶磁器片が出土しました。これまで検出された遺構（人びとが生活していた跡など）に関連するものは検出されませんでした。

こうした結果は、展示などで皆さんにお知らせしていくたいと考えております。

F地点以前の道灌山遺跡については、荒川ふるさと文化館の常設展示室で公開されています。また、F地点の調査結果は『道灌山遺跡F地点発掘調査報告書』として刊行され、区内各図書館で貸し出ししています。また、

灌山遺跡F地点発掘調査報告書として刊行され、区内各図書館で貸し出ししています。また、

灌山遺跡F地点発掘調査報告書として刊行され、区内各図書館で貸し出ししています。また、

### 埋蔵文化財レポート

#### 報告書刊行!!

道灌山遺跡F地点は、平成10年2月から3月に発掘調査が行われ、平成10年9月から平成11年3月にかけて、整理調査がされました。

道灌山遺跡F地点は、平成10年2月から3月に発掘調査が行われ、平成10年9月から平成11年3月にかけて、整理調査がされました。



荒川ふるさと文化館で配布されています。

## 館蔵資料展

荒川ふるさと文化館内の企画展示室では、企画展の他に区民の皆さんから寄贈いただいたものなど館で所蔵している資料からテーマを決めて展示を行っています。概ね1ヵ月～3ヵ月ごとに展示内容が替わりますが、「あらかわ区報」や区内各所のポスターなどでお知らせしていますので、興味を持たれた方はぜひ足をお運びください。

本号では4月から8月までに開催した3つの館蔵資料展について紹介します。

（開催期間 4月17日～5月30日）

### 生活文化財展

#### →忘れられた道具たち

生活文化財とは、区民の皆様から寄せていたいた生活道具を中心です。たくさんの生活文化財は、文化館の収蔵庫に大切に保管されています。

ひとくちに生活文化財といつても、様々なものがあります。着物や農具類はもちろんのこと、またいや大八車までの車両などもあります。どれも一昔前までは、私たちの日常にあつた物たちばかりです。しかし、そういう物だからこそ、なくなるのも早いのです。たくさんの便利なものに囲まれた現代の生活。不便になつた物たちは、次々に忘れざられていきます。この展示では、これまでの私たちの生活を支えてきた道具たちが、どんな変遷をへて、現在の生活へ引き継がれているのかを見てみよう



「あかり」では、燭台やペンダントガス灯などを展示しました。江戸時代までは、蠅燭などが「あかり」の中心でした。明治になり西洋の文化が流入すると、一緒にガスや電気も日本で取り入れられました。あらかわには、南千住に東京瓦斯株式会社千住製造所（明治6年、一八七三）、千住火力発電所（明治38年、一九〇六）が建てられ、ガス灯や電灯が普及していきました。

「涼」では、氷かきなどを展示しました。今は、くるくるとハンドルをまわして氷を削る氷かきが夏になると出回ります。大正頃に使用された氷かきは、カンナの下に台を付けただけの簡素なものでした。また、氷を入れて使う木製のクーラーバッグなどもあります。

一方「暖」では、ダルマストーブやぐらごたつなどを展示しました。燃料は現在の電気・石油などと違い、炭や、炭の粉末をふのりで丸く固めた、たどんなどを使いました。

「裁縫・洗濯」では、洗濯板やくけ台などを展示しました。着物の生活が洋服へと変化しこれらの道具も変わりました。例えば、張り板。着物は洗うときは、一度縫い目をほどきました。

では、企画展示室内をご案内します。中には趣味・あかり・台所用品・衛生・涼・暖・裁縫洗濯の7つのテーマを設けました。  
まずは「趣味」から見ていきましょう。今回は特に音楽関係の資料を中心に、蓄音機や三味線・大正琴などを展示しました。あらかわにとつて、「音楽」は無縁ではありません。西日暮里にトンボ・ハーモニカ製造工場（大正7年、一九一八年）や西尾久にキングレコード尾久工場（昭和11年、一九三六年）が建てられました。文化館の常設展示の近代のコーナーにも、これらの製品が展示されています。

「あかり」では、燭台やペンダントガス灯などを展示しました。江戸時代までは、蠅燭などが「あかり」の中心でした。明治になり西洋の文化が流入すると、一緒にガスや電気も日本で取り入れられました。あらかわには、南千住の茶の間を再現しました。この時代は高度経済成長期以前であり、ジャケではなくお櫃などを使用していました。常設展示室にある長屋は昭和41年頃のもので、白黒テレビや電気釜が普及していました。観覧された方は、その違気に気付かれたことと思います。

以上、7つのテーマに加え、昭和30年頃の茶の間を再現しました。この時代は高度経済成長期以前であり、ジャケではなくお櫃などを使用していました。常設展示室にある長屋は昭和41年頃のもので、白黒テレビや電気釜が普及していました。観覧された方は、その違気に気付かれたことと思います。



### 館蔵資料展

「おじいちゃん、おばあちゃんが子どもだったころ…」については、夏休み子ども博物館（5頁）の項で紹介しています。

**皆川号外コレクション展**

**明治時代の号外—付録から号外へ—**  
**(開催期間 6月5日～7月11日)**

災害や事故、事件など、読者の関心に合わせて、臨時に発行する新聞の付随物が「号外」ですが、明治時代前半には「付録」・「別紙」・「別号」などの呼び名で発行されたり、あるいは新聞に付箋を付け発行されていました。

日曜の休刊日や新聞配達後などに、みなさんの注目すべき情報が入ったので、特別にお知らせします。こんな感じ書きが添えられて「付録」・「別紙」として発行されていました。

今回の「皆川号外コレクション展」は、付録や別紙など「号外」の名称や形態がさまざまであつた明治前期から、最初の号外競争といわれる、明治22年の大日本帝国憲法発布の報道や印刷技術の発達を経て、「付録」にかわり「号外」が速報手段の名称として定着する日清戦争頃までを展示しました。

**新規黎明期の明治前期は「号外」のさまざまな形の「号外」**

名称は一般的ではありませんでした。

「もはや配達人も出切りの跡なれども皆様お待かねの事件なればわざわざ小紙に摺りまして今日再び配達いたします」（明治9年3月2日 東京日々新聞第1268号付録）というように、最初に断つて「付録」・「別紙」「別号」と称して、本紙とは別に配達されていたのです。

明治17年の朝日新聞の付録は、朝鮮事変【朝鮮の自主独立を目指した政変で、「甲申の変」と呼ばれます】を「特報」・「要報」としており、これな

どは号外報道に近いかもしれません。

**■明治前期の号外**

「左の緊要なる電音を得たれば取敢ず報道す」（明治15年9月3日 東洋新報号外）や、「本夕は本紙の休刊なるにも係らず取り敢えず号外を以て読者諸君に特報す」（明治18年4月19日東京日々新聞号外）などの断り書きは「付録」・「別紙」の場合と同じで、号外との区別ははつきりしません。

一方、明治5年10月の太政官の布告（学制実施の基本方針）には、すでに「号外」の文字が見られます。政府の布告をはじめ行政機関からの達しは、「第〇号」で通達されたのですから、号数に数えられないものが号外として出されたもので、新聞報道における号外の用法よりも区別がはつきりしてきます。

皆川号外コレクションにある資料では、朝野新聞が一貫して「号外」の名稱を使用している様子がわかります。一方、明治10月の太政官の布告（学制実施の基本方針）には、すでに「号外」の文字が見られます。政府の布告をはじめ行政機関からの達しは、「第〇号」で通達されたのですから、号数に数えられないものが号外として出されたもので、新聞報道における号外の用法よりも区別がはつきりしてきます。

**■読売新聞の付録「付録」**

明治5年11月3日の京都新報第19号は、本紙に付箋を付けて発行していますが、読売新聞ももっぱら付箋を使用していました。これらは「付箋号外」と呼ばれています。

明治10年3月19日読売新聞第646号には、付箋が2枚添付されており、本紙印刷後に重要な情報が入れば、記事内容に合わせた大きさの小紙に印刷して貼付けられたのでしょう。また、この本紙添付の付箋には記事のみで日付等はありませんが、他の付箋記事には日付と「付録」と印刷されており、新聞以外に付されたのかも知れません。

今日は、「付箋号外」と呼ばれていましたが、「付箋号外」と命名したのは、皆川重男氏と言われます。

朝野新聞は、明治7年に「公文通誌」

を改題し、論説欄を設けた本格的な政論新聞で、成島柳北や末広鉄腸の辛辣な風刺が読者の人気を呼びました。

朝野新聞号外は、「本日は休業なれども……号外の一紙を発児す」との断り書きで、他紙のように「付録」ではなく「号外」で発行しているようです。

皆川号外コレクションにある資料では、朝野新聞が一貫して「号外」の名稱を使用している様子がわかります。

**■号外付録**

読売新聞や東京日日新聞では、本紙の号数とは別（つまり号外）に刷った付録を「号外付録」と称して発行しています。

朝日新聞は、この世論が沸騰した一大事件の公判傍聴筆記を号外・付録両用で発行しています。

大事件の公判傍聴筆記を号外・付録両用で発行しています。

**■号外付録**

読売新聞や東京日日新聞では、本紙の号数とは別（つまり号外）に刷った付録を「号外付録」と称して発行しています。

朝日新聞は、この世論が沸騰した一大事件の公判傍聴筆記を号外・付録両用で発行しています。

側も英國船長を殺人罪で告訴した結果、船長は禁固3か月の有罪となりました。

朝日新聞は、この世論が沸騰した一大事件の公判傍聴筆記を号外・付録両用で発行しています。



**■ノルマントン号沈没事件**

ノルマントン号事件とは、明治19年10月、横浜から神戸に向かう途中の英

国貨物船ノルマントン号が、暴風雨のため紀州沖で難破して沈没した際、船長以下の乗組員や外国人乗客全員が救助されたのに對し、日本人乗客は全員

避難できず水死したという悲惨な事件です。船長の処置に不審があつたにもかかわらず、神戸の英國領事館における海難審判では無罪となりました。日

本の法律では裁けない当時の不平等条約下にあつて、世論は納得せず、日本

の肖像画などに変わっていました。

このように、新聞発行が容易になると、一刻を争う事件は「号外」で報道され「付録」は、絵画的な話題や著名人の肖像画などに変わっていきました。

# 郷土学習室から

今年度の4月から、郷土学習室の開室時間が変更になりました。平日休祭日ともに、午後5時まで開いています。なお文化館の職員がカウンターに入っている時間は原則として以下の通りです。

火～9時半～11時半

水・木・金～9時半～13時

土・休日祭日～15時～17時

この時間以外は、図書館の職員が入っています。図書館と文化館では、それ専門が違つてきます。特に、文化館や郷土に関するご質問などがありましたら、文化館の職員がいる時間にいらしてみて下さい。郷土学習の支援をいたします。

教育委員会で出版している民俗報告書や文化財関係の書籍の有償頒布も行っています。カウンターの職員までお申し出ください（有償頒布刊行物一覧は本号3頁をご覧ください）。また、伝統芸能等記録ビデオの編集作品、指定無形文化財保持者の技術記録映画「伝統に生きる」、荒川区広報課で製作した区に関するさまざまな作品がビデオブースでご覧いただけます。映像資料も古文書や写真のように貴重な歴史資料の一つです。記録・保存だけではなく、多くの人が郷土学習や研究に利用・活用できるように整備していくのも、文化館の大切な仕事と考えています。

文化館が開館して1年以上がたち、徐々に郷土学習室も定着してきました。郷土学習支援の場として、より良いレファレンス活動をめざします。どうぞ、ご利用ください。

## ◆荒川ふるさと文化館

**企画展開催中（11月14日(日)迄）**

「あらかわと職人の歴史世界」

\*10月1日(金)～3日(日)は無料公開日

\*企画展記念講演会

テーマ「江戸職人町の形成と

移り変り」(仮題)

日時 10月30日(土) 午後2時～4時

会場 荒川ふるさと文化館視聴覚室

費用 無料

講師 南和男氏(元駒沢大学教授)

申込 荒川ふるさと文化館へ電話で

◆第20回あらかわの伝統技術展

日 時 10月1日(金)～4日(月)

(最終日は午後4時まで)

会 場 区立町屋文化センター

入場料 無料

\*今年は、荒川ふるさと文化館「伝統技術展会場間を送迎バスが走ります。(10月1日～3日、事前申込・無料)職人の「歴史」を楽しむ。今

に生き続ける「技」を間近で堪能する。一度に味わうまたとないチャンスです。

## ◆史跡めぐり

日 時 11月6日(土)

午後1時30分～3時30分

費用 無料

\*テーマ、集合場所等詳細については「あらかわ区報」でお知らせします。

申込 荒川ふるさと文化館へ電話で

(10月12日より受付)

◆あらかわ文化財講座

日 時 11月11日(木)、17日(水)、25日(木)

# 伝言板

会場 荒川ふるさと文化館視聴覚室  
費用 無料

\*テーマ、講師等詳細については「あらかわ区報」でお知らせします。

申込 荒川ふるさと文化館へ電話で

(10月21日より受付)

申込み・問合せは  
03-3807-9234へ

## ふるさと文化館日誌

自 平成11年4月1日

至 平成11年9月15日

4・5～8 地下収蔵庫燻蒸作業

17 館蔵資料展

「生活文化財展～忘れられた道員たち～」開始

文化財保護推進員会

伝統技術展主催者打合せ

文化財保護審議会(諮詢)

史跡めぐり(板碑編)

(講師)三宅宗議氏 東国文

化研究会会員)

学校職人教室打合せ

古文書講座

(講師)田淵正和当館元専門

員)

学校職人教室開始(区内小学

校21校)

館蔵資料展終了

夏休み子ども博物館事業

「土器作り」(磨き)

夏休み子ども博物館事業

「荒川ふるさと探険ツアーフルコース」

夏休み子ども博物館事業

西日暮里4丁目個人住宅建設

6.	5.30	28	22	15.14.21	5.12.21	4.5.8	22	21	17.16.11.10.7.30	29.26.22	
16.12	11月6日(土)	学校職人教室開始(区内小学	古文書講座	文化財保護審議会(諮詢)	文化財保護審議会部会	文化財保護審議会(諮詢)	博物館実習終了(計7日間)	予定地立会調査	古文書講座	文化財保護審議会部会	文化財保護審議会(諮詢)
15.10.31	27.26.24	22	18	27	夏休み子ども博物館事業	夏休み子ども博物館事業	西日暮里4丁目個人住宅建設	南千住3丁目個人住宅建設予定地試掘調査	学校職人教室終了	文化財保護推進員会	文化財保護審議会部会